

3. 遠隔教育の手段としての情報通信技術

大学設置基準の改訂によって遠隔授業の単位化が可能となって以降、これまで通信制課程のみによって行われてきた遠隔教育が通学制課程においても実施されるようになった。遠隔教育を行う場合に、ITは必要不可欠となってきつつあるが、こういったテクノロジーが使われているのであろうか。衛星通信、地上系通信、インターネットの教育などへの利用は（表3-1）、インターネットがもっともよく利用され、加えて、利用を予定している機関も多い。衛星通信、地上系通信はともに、国立4年制大学において多く利用されている。短大では、4年制大学、高専と比較して、どのITでも利用の度合いが低い。それらが利用されている教育場面については（表3-2）、衛星通信、地上系通信、インターネットのいずれも学生対象の専門教育への利用が多い。衛星通信や地上系通信では、「教員の研究会」や「教員や職員の会議」に多く利用され、それと比較してインターネットでは、語学教育や補習教育に多く利用されるという傾向がある。

表3-1. ITの利用状況

(%)

		利用している	利用を計画 している	利 用 す る 計画はない	
衛星通信* ¹	4 年制大学	13.2	8.9	77.8	
	(設置者別)	国 立	40.7	10.8	48.5
		公 立	1.7	3.3	95.0
		私 立	4.0	8.8	87.2
	短 大	2.2	3.9	93.9	
	高 専	23.6	16.4	60.0	
地上系通信* ²	4 年制大学	23.5	20.0	56.5	
	(設置者別)	国 立	38.7	21.0	40.4
		公 立	11.7	23.3	65.0
		私 立	18.9	19.5	62.0
	短 大	7.8	10.3	81.8	
	高 専	7.4	25.9	66.7	
インターネット* ³	4 年制大学	35.0	25.6	39.5	
	(設置者別)	国 立	43.2	28.4	28.4
		公 立	16.7	18.3	65.0
		私 立	33.5	25.2	41.2
	短 大	29.8	16.4	53.8	
	高 専	47.3	23.6	29.1	

*1 専用衛星を利用したテレビ会議（同期）

*2 ISDNなど各種の地上系回線を利用したテレビ会議（同期）

*3 WWWなどを利用した授業などの配信（非同期）

表 3－2．ITによる教育

(表 3－1 において「利用している」と「利用を予定している」を対象にした比率、複数回答)

(%)

		4 年制 大 学	(設置者別)			短大	高専
			国立	公立	私立		
衛星通信	教員や職員の会議	34.4	43.5	0.0	19.0	8.3	57.9
	社会人対象の研修や公開講座	23.3	22.6	0.0	25.4	16.7	42.1
	教員の研究会	38.9	49.6	100.0	19.0	16.7	68.4
	共通教養教育（一般教育）	22.8	20.0	100.0	27.0	66.7	36.8
	語学教育	13.3	9.6	0.0	19.0	25.0	21.1
	補習教育	5.6	3.5	0.0	9.5	8.3	5.3
	学生対象の専門教育	44.4	46.1	100.0	41.3	41.7	52.6
	大学院生対象の専門教育	52.2	55.7	0.0	47.6	—	—
地上系通信	教員や職員の会議	60.5	65.2	55.0	58.3	49.1	43.8
	社会人対象の研修や公開講座	32.8	38.3	45.0	28.5	34.5	50.0
	教員の研究会	28.2	36.2	25.0	23.2	29.1	62.5
	共通教養教育（一般教育）	31.8	35.5	35.0	29.4	49.1	25.0
	語学教育	19.5	17.7	10.0	21.1	14.5	43.8
	補習教育	13.3	13.5	15.0	13.2	18.2	31.3
	学生対象の専門教育	41.8	39.7	25.0	44.3	40.0	50.0
	大学院生対象の専門教育	31.0	36.9	30.0	27.6	—	—
インターネット	教員や職員の会議	23.4	21.3	22.2	24.6	18.3	31.6
	社会人対象の研修や公開講座	37.8	41.3	38.9	36.3	30.7	52.6
	教員の研究会	27.5	26.3	11.1	29.2	21.6	34.2
	共通教養教育（一般教育）	44.9	41.0	33.3	47.3	42.5	42.1
	語学教育	41.0	30.6	33.3	45.9	37.3	50.0
	補習教育	36.1	31.1	22.2	39.4	32.7	50.0
	学生対象の専門教育	65.8	62.7	61.1	67.4	77.8	71.1
	大学院生対象の専門教育	43.2	56.5	38.9	37.1	—	—

図3-1は、衛星通信とISDNなどの地上系通信、そしてインターネットの教育への利用度の変化を示したものである。インターネットの利用は地上系通信や衛星通信よりも多く、その傾向はここ数年で変わっていない。

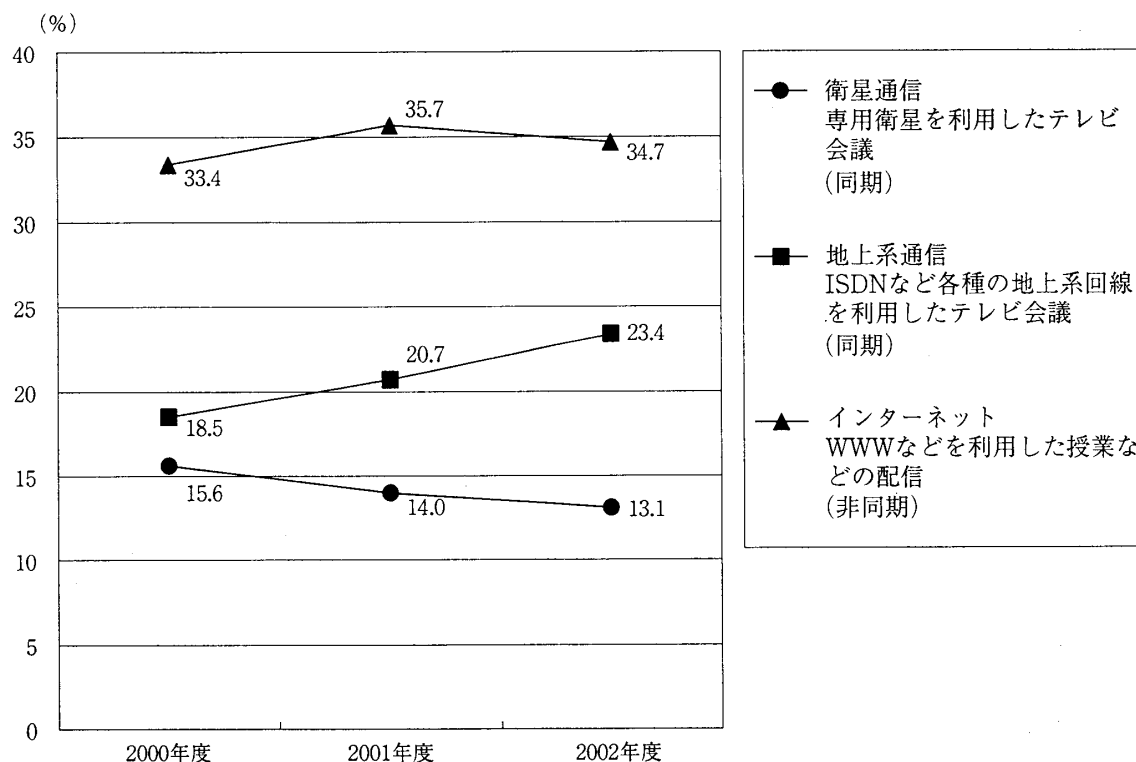


図3-1. 情報通信技術の3年間の利用度の変化（4年制大学のみ）

次に、これらのテクノロジーの利用場面による「棲み分け」をみてみよう（図3-2）。衛星通信、地上系通信、インターネットといったテクノロジーの違いでみると、学生対象の専門教育にはどのテクノロジーもよく利用されている。それ以外では、衛星通信や地上系通信は教員や職員の会議に、インターネットは語学教育や補習教育によく利用されている。衛星通信や地上系通信などの同期双方向のテレビ会議方式は、時間と場所が固定されるが双方向のコミュニケーションが容易であるという特徴があり、それが会議や研究会によく利用されている理由であろう。一方で非同期のインターネットの場合には、画面の大きさなどによる制約から、多人数が一斉に双方向でコミュニケーションをとることは困難であるが、時間と場所の制約からは解放される。そのために、個人のペースで学習を進めていくような場面に適していると考えられているといえる。また、社会人対象の研修や公開講座はインターネットが最も多くなっているが、これは次にみる学生対象のオンラインコースを公開講座として社会人にも開講することが増えているためと思われる。

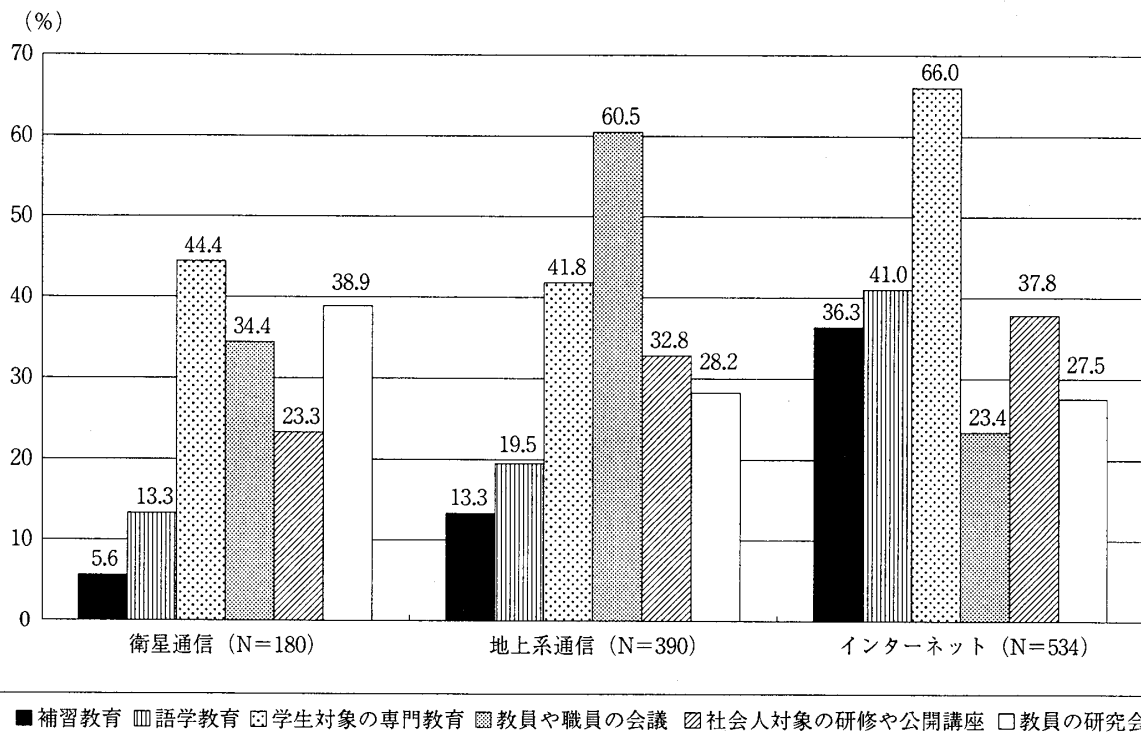


図 3－2．衛星通信・地上系通信・インターネットの利用場面（４年制大学のみ）

（田口真奈）